

インクル



発行：北海道七飯養護学校 七飯町立七飯中学校

交流及び共同学習が進んでいます

これまで中学2年生は、5月に七飯中学校体育大会で『インクルーシブ・サッカー』、10月に七飯中学校学校祭で『手話歌(翼をください)』を行ってきました。12月に入り、中学2年生は5日(金)に、お祭りをモチーフにした交流『縁日』を、中学1年生は10日(水)に、アダプテッドスポーツの『モルック』と『ボッチャ』を共同学習として行いました。事前のZOOM交流も含めて、本事業が順調に進んできています。

◎12月 5日(金)七中2年生と七養中学部2年生との交流

『①金魚すくい、②輪投げ、③ボウリング、④ストラック・アウト、⑤ボッチャ、⑥お絵描き』の6つのブースに分かれ、グループごとに『ブースで楽しむ』時間と『ブースを運営する』時間を分けて、みんなで楽しみました。2か月ぶりに会うお友達と、これまでも増して和気藹々とした雰囲気で過ごすことができました。



◎12月10日(水)七中1年生と七養中学部1年生の共同学習

2年生の交流及び共同学習から学年の枠の広がりを見せ、1年生においても実施されたことは次年度に向けての大きな成果です。1年生は、七飯中学校体育館において『ボッチャ』と『モルック』を保健体育科の共同学習として実施しました。事前のZOOM交流でお互いの様子や雰囲気を知り、アダプテッドスポーツを通してインクルーシブについて理解を深めることができましたようです。始めはお互いに緊張感もありましたが、だんだんと打ち解け、いつの間にか言葉を掛け合う様子も見られ、終わってからも「また来年会おうね」という声があちらこちらから聞こえるなど、温かい雰囲気に包まれていました。



ZOOM交流の様子(七飯中)

第2回教員合同研修

11月19日(水)、七飯町文化センターにおいて、札幌あいの里高等支援学校長 今井章文様を講師にお迎えし、インクルーシブな学校運営モデル事業、の一環として第2回教員合同研修を開催しました。



～交流及び共同学習の充実にに向けた体制構築等の在り方について～

共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む

各学校では…インクルーシブ教育システム〈交流及び共同学習〉⇒共生社会の形成

アンコンシャス・バイアス

生きにくさがある人たちへの環境のバリアを取り除く適切な指導・支援が必要！

地域資源を活用した教育活動を行うことで、生徒が生きる力を身に付ける

自己有用感・自己肯定感・自己効力感

◎地域協働

地域の人たちと同じ立場での活動を通し、お互いの存在意義や人格、特色を理解しながら地域活動を行う。

共生社会の形成

◎地域貢献

地域の状況やニーズを把握し、持続的、継続的に活動を行うことで、生徒が地域の期待に応えながら役割を自覚し、存在価値を高めていく。

本物の提供

◎地域創生

地域に向けた活動を継続的に行うことで、住民が学校を地域の資源であることを認め、人が集うコミュニティの場や機会を提供する役割を果たす。

地域のプラットフォームに



札幌あいの里高等支援学校長
今井章文氏

◎障がいのある子供とない子供、あるいは地域の障がいのある人との触れ合い

- ・経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる。
- ・人々の多様な在り方を理解し、障がいのある人となない人が共に支え合う意識を醸成する。

◎学びに繋げる教育活動

- ・内面化・言語化：交流後の感想文や発表を通じて、子供たちの中で感情や気付きを整理し言語化させる。
- ・振り返り・対話・再受容：体験したことを振り返り、対話し、そこから得られた学びを再受容するプロセスを設ける。
- ・事前・事後学習の充実：交流が子供の発達や成長にどう繋がるかを意識し、しっかり教育課程に位置づけた上で、授業内で適切な内容を用意する。

◎学校運営と継続性

- ・教育課程への位置付け：交流及び共同学習を「イベント(トピック)」ではなく、教育課程にしっかりと位置づけることで持続可能な取組となる。
- ・推進体制の構築：地域での取組を継続させるには、関係校の教員が目的やねらいを共有し、組織とスケジュールを定めて推進することが不可欠である。



〈質疑応答〉

1. 校種を超えたつながりをどう生み出しているのか？

・平取町における交流の推進組織について

- ①組織体制：交流及び共同学習を推進するための「4校交流(実行委員会)」という組織があり、4校(養護、小、中、高校)の担当者が集まり、年間計画を策定している。
- ②主体校の輪番制：事務局は4校が持ち回りで担当している。

2. 高校と支援学校との具体的な取組を教えてください。

- ①活動内容：体育館での球技大会や学校案内などが実施されている。
- ②内容の決定：活動内容は毎年固定されているわけではなく、特別支援学校の生徒の状況や力が発揮できるように、それぞれの学校で検討されている。

〈まとめ〉 学校教育が将来の共生社会の「作り手」を担っている。各校の先生方は、交流及び共同学習を通し、児童生徒に対して、障がいのある方々への正しい理解と共生意識を伝え、『共生社会という言葉が使われなくてもよい社会』の実現に向けて、持続可能な取組を推進していくことが求められる。

〈講演会の感想〉

- ・ 今井先生のお話は、とても聞きやすく分かりやすく、教員全員で共通理解していければ嬉しいと思いました。そして、インクルーシブな考え方が社会全体に広がり、優しい社会になることの一端を担う一人として頑張っていきたいと再確認できました。
- ・ 共生社会への取組が、実践例を通して説明くださり分かりやすかったです。
- ・ 来年度から高校や小学校も入り、4校合同で動き出せたらよいと思いました。
- ・ 研修会後に学校へ戻ったところ、早速コーディネーターが資料をコピーし、通常級担任に「学級経営にめっちゃ参考になる」「今度の校内初任者研でもう少し掘り下げて勉強しよう」と声がけしながら渡していました。…本校の学級経営の質向上にも参考となる、すぐに学校で活用できる講演に参加させていただきましたことに厚く感謝申し上げます。
- ・ 全ての学校でやらなくてはならないものである、生徒たちにとってよい学びに繋がなくてはならないと感じた。プレッシャーはある。
- ・ インクルーシブ教育の目的や目指すところ、他校の具体的な取組を知ることができ、自分が所属している学年ではどんな取組ができるかを考えるきっかけとなり、とても勉強になりました。
- ・ 交流及び共同学習について、体験・経験で終えるのではなく、振り返りの事後学習を必ず行うことの重要性を学ぶことができました。

年が明けて1月16日(金)に『令和7年度 成果発表会』があります。この1年間の成果と令和8年度に向けた方向性など、シンポジウムの形で発表や意見交流ができることを期待しております。この事業を通して子どもたちが輝くために、関係各位の益々の御理解と御支援をお願いいたします。(文責 CM三鶯徳久)